

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2018(2019年更新版)に準拠して作成

睡眠導入剤

日本薬局方 ゾルピデム酒石酸塩錠

ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」
ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」

ゾルピデム酒石酸塩口腔内崩壊錠

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」
ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」

ZOLPIDEM TARTRATE Tablets, OD Tablets [SAWAI]

剤形	錠5mg/錠10mg：割線入りフィルムコーティング錠 OD錠5mg/OD錠10mg：割線入り素錠(口腔内崩壊錠)
製剤の規制区分	向精神薬(第三種)、習慣性医薬品 ^{注1)} 、処方箋医薬品 ^{注2)} 注1)注意－習慣性あり 注2)注意－医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	錠5mg/OD錠5mg：1錠中日局ゾルピデム酒石酸塩5mg含有 錠10mg/OD錠10mg：1錠中日局ゾルピデム酒石酸塩10mg含有
一般名	和名：ゾルピデム酒石酸塩(JAN) 洋名：Zolpidem Tartrate(JAN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載年月日 販売開始年月日	製造販売承認年月日：2012年2月15日 薬価基準収載年月日：2012年6月22日 販売開始年月日：2012年6月22日
製造販売(輸入)・提携・ 販売会社名	製造販売元：沢井製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	沢井製薬株式会社 医薬品情報センター TEL：0120-381-999、FAX：06-7708-8966 医療関係者向け総合情報サイト： https://med.sawai.co.jp/

本IFは2023年10月改訂の電子添文の記載に基づき改訂した。

最新の情報は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品情報検索ページで確認してください。

医薬品インタビューフォーム利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書(以下、添付文書)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者(以下、MR)等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム(以下、IFと略す)が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬)学術第2小委員会がIFの位置付け、IF記載様式、IF記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がIF記載要領の改訂を行ってきた。

IF記載要領2008以降、IFはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したIFが速やかに提供されることとなった。最新版のIFは、医薬品医療機器総合機構(以下、PMDA)の医療用医薬品情報検索のページ(<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>)にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のIFの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせて、IF記載要領2018が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

IFに記載する項目配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

IFの提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

3. IFの利用にあたって

電子媒体のIFは、PMDAの医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従ってIFを作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書をPMDAの医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。IFは日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には薬機法の広告規則や医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らがIFの内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、IFを活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

(2020年4月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	35
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	35
2. 製品の治療学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由	35
3. 製品の製剤学的特性	1	3. 効能又は効果に関連する注意とその理由	35
4. 適正使用に関して周知すべき特性	1	4. 用法及び用量に関連する注意とその理由	35
5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1	5. 重要な基本的注意とその理由	35
6. RMPの概要	2	6. 特定の背景を有する患者に関する注意	35
II. 名称に関する項目	3	7. 相互作用	36
1. 販売名	3	8. 副作用	37
2. 一般名	3	9. 臨床検査結果に及ぼす影響	38
3. 構造式又は示性式	3	10. 過量投与	38
4. 分子式及び分子量	3	11. 適用上の注意	38
5. 化学名(命名法)又は本質	4	12. その他の注意	39
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	4	IX. 非臨床試験に関する項目	40
III. 有効成分に関する項目	5	1. 薬理試験	40
1. 物理化学的性質	5	2. 毒性試験	40
2. 有効成分の各種条件下における安定性	5	X. 管理的事項に関する項目	41
3. 有効成分の確認試験法、定量法	5	1. 規制区分	41
IV. 製剤に関する項目	6	2. 有効期間	41
1. 剤形	6	3. 包装状態での貯法	41
2. 製剤の組成	7	4. 取扱い上の注意	41
3. 添付溶解液の組成及び容量	7	5. 患者向け資材	41
4. 力価	7	6. 同一成分・同効薬	41
5. 混入する可能性のある夾雑物	7	7. 国際誕生年月日	41
6. 製剤の各種条件下における安定性	8	8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準 収載年月日、販売開始年月日	42
7. 調製法及び溶解後の安定性	15	9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等 の年月日及びその内容	42
8. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	15	10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその 内容	42
9. 溶出性	15	11. 再審査期間	42
10. 容器・包装	20	12. 投薬期間制限に関する情報	42
11. 別途提供される資材類	21	13. 各種コード	43
12. その他	21	14. 保険給付上の注意	43
V. 治療に関する項目	23	XI. 文献	44
1. 効能又は効果	23	1. 引用文献	44
2. 効能又は効果に関連する注意	23	2. その他の参考文献	45
3. 用法及び用量	23	XII. 参考資料	46
4. 用法及び用量に関連する注意	23	1. 主な外国での発売状況	46
5. 臨床成績	23	2. 海外における臨床支援情報	46
VI. 薬効薬理に関する項目	26	XIII. 備考	47
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	26	1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあ たっての参考情報	47
2. 薬理作用	26	2. その他の関連資料	49
VII. 薬物動態に関する項目	27		
1. 血中濃度の推移	27		
2. 薬物速度論的パラメータ	31		
3. 母集団(ポピュレーション)解析	32		
4. 吸収	32		
5. 分布	32		
6. 代謝	33		
7. 排泄	34		
8. トランスポーターに関する情報	34		
9. 透析等による除去率	34		
10. 特定の背景を有する患者	34		
11. その他	34		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg/錠10mg/OD錠 5 mg/OD錠10mg「サワイ」は、日局ゾルピデム酒石酸塩を含有する睡眠導入剤である。

本剤は、後発医薬品として下記通知に基づき、製造方法並びに規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、承認を得て上市に至った。

承認申請に際し準拠した通知名	平成17年3月31日 薬食発第0331015号(平成21年3月4日 薬食発第0304004号により一部改正)
承認	2012年2月
上市	2012年6月

2. 製品の治療学的特性

- 1) 本剤は、「不眠症(統合失調症及び躁うつ病に伴う不眠症は除く)」の効能又は効果を有する。(V. -1. 参照)
- 2) ゾルピデム酒石酸塩は、 ω_1 (BZD₁)受容体に対して選択的な親和性を示し、GABA_A系の抑制機構を増強するものと考えられる。(VI. -2. 参照)^{1, 2)}
- 3) 重大な副作用として、依存性、離脱症状、精神症状、意識障害、一過性前向き健忘、もうろう状態、睡眠随伴症状(夢遊症状等)、呼吸抑制、肝機能障害、黄疸が報告されている。(VIII. -8. 参照)

3. 製品の製剤学的特性

- 1) OD錠と普通錠を用意している。
- 2) 含量の刻印があり、割線を施している。(IV. -1. 参照)
- 3) ストロベリー様の芳香である。[OD錠](IV. -1. 参照)
- 4) PTPシートに「睡眠導入剤」及び「就寝直前服用」の文字を記載している。
- 5) バラ包装を用意している。(IV. -10. 参照)

4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資材、最適使用ガイドライン等	有無
RMP	無
追加のリスク最小化活動として作成されている資材	無
最適使用推進ガイドライン	無
保険適用上の留意事項通知	無

(2024年4月1日時点)

5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

1) 承認条件

該当しない

2) 流通・使用上の制限事項

該当しない

I. 概要に関する項目

- 6. RMPの概要
該当しない

II. 名称に関する項目

1. 販売名

1) 和名

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」
 ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
 ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5mg「サワイ」
 ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」

2) 洋名

ZOLPIDEM TARTRATE Tablets, OD Tablets [SAWAI]

3) 名称の由来

通知「平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号」に基づき命名した。

2. 一般名

1) 和名(命名法)

ゾルピデム酒石酸塩 (JAN)

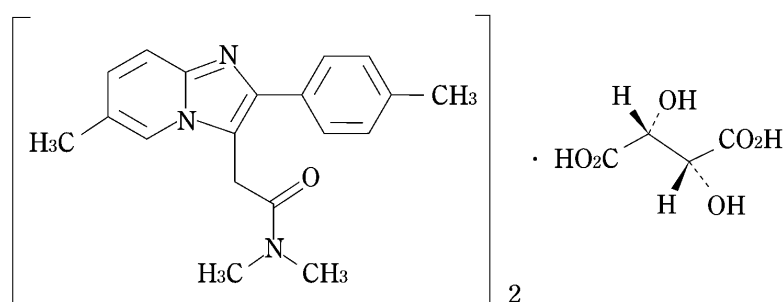
2) 洋名(命名法)

Zolpidem Tartrate (JAN)
 Zolpidem (INN)

3) ステム (stem)

-pidem : hypnotics/sedatives, zolpidem derivatives

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $(C_{19}H_{21}N_3O)_2 \cdot C_4H_6O_6$
 分子量 : 764.87

II. 名称に関する項目

5. 化学名(命名法)又は本質

N,N,6-Trimethyl-2-(4-methylphenyl)imidazo[1,2- α]pyridine-3-acetamide hemi-
(2*R*,3*R*)-tartrate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質
- 1) 外観・性状
 白色の結晶性の粉末である。
- 2) 溶解性
 酢酸(100)に溶けやすく、*N,N*-ジメチルホルムアミド又はメタノールにやや溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール(99.5)又は無水酢酸に溶けにくい。0.1mol/L塩酸試液に溶ける。
 溶解度(37°C)³⁾ : pH1.2 : 10mg/mL以上、pH4.0 : 10mg/mL以上、pH6.8 : 4.7mg/mL、水 : 8.9mg/mL
- 3) 吸湿性
 水分 : 3.0%以下(0.5g、容量滴定法、直接滴定)
- 4) 融点(分解点)、沸点、凝固点
 該当資料なし
- 5) 酸塩基解離定数
 $pK_{a1}=2.84$ (25°C、カルボキシル基、滴定法)³⁾
 $pK_{a2}=3.96$ (25°C、カルボキシル基、滴定法)³⁾
 $pK_{a3}=6.35$ (25°C、イミダゾール環、滴定法)³⁾
- 6) 分配係数
 該当資料なし
- 7) その他の主な示性値
 旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: 約+1.8° (1g、*N,N*-ジメチルホルムアミド、20mL、100mm)
2. 有効成分の各種条件下における安定性
- 光によって徐々に黄色となる。
 保存条件 : 遮光して保存する。
3. 有効成分の確認試験法、定量法
- <確認試験法>
 日局「ゾルピデム酒石酸塩」の確認試験に準ずる。
 1) ドラーゲンドルフ試液による沈殿反応
 2) 紫外可視吸光度測定法
 3) 赤外吸収スペクトル測定法
 4) 酒石酸塩の定性反応
- <定量法>
 日局「ゾルピデム酒石酸塩」の定量法に準ずる。(電位差滴定法)

IV. 製剤に関する項目













1. 剤形

1) 剤形の区別

ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg/錠10mg「サワイ」：割線入りフィルムコーティング錠

ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5 mg/OD錠10mg「サワイ」：割線入り素錠(口腔内崩壊錠)

2) 製剤の外観及び性状

品名	表 (直径mm)	裏 (重量mg)	側面 (厚さmm)	性状
ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」	 6.6	 約93	 2.8	淡いだいだい色
ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「サワイ」	 8.6	 約185	 3.3	淡いだいだい色
ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5 mg「サワイ」	 6.5	 約90	 2.7	淡赤色
ゾルピデム酒石酸塩OD錠 10mg「サワイ」	 8.5	 約180	 3.3	淡赤色

- ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5 mg/OD錠10mg「サワイ」
ストロベリー様の芳香、添加剤由来の甘みを有する。

3) 識別コード

- ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」
表示部位：錠剤本体(片面)、PTPシート
表示内容：SW Z 1
- ゾルピデム酒石酸塩錠 10mg「サワイ」
表示部位：錠剤本体(片面)、PTPシート
表示内容：SW Z 2
- ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5 mg「サワイ」
表示部位：錠剤本体(片面)、PTPシート
表示内容：SW ZL 1
- ゾルピデム酒石酸塩OD錠 10mg「サワイ」
表示部位：錠剤本体(片面)、PTPシート
表示内容：SW ZL 2

4) 製剤の物性

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg/錠10mg「サワイ」

製剤均一性：日局ゾルピデム酒石酸塩錠 製剤均一性の項により含量均一性試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日局ゾルピデム酒石酸塩錠 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5 mg/OD錠10mg「サワイ」

製剤均一性：日局一般試験法 製剤均一性試験法の項により含量均一性試験を行うとき、規格に適合する。

崩壊性：日局一般試験法 崩壊試験法の項により試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日局一般試験法 溶出試験法の項により試験を行うとき、規格に適合する。

摩損度：日本薬局方 参考情報 錠剤の摩損度試験法により試験を行う。(25rpm、4分間)
0.14% (OD錠 5 mg)、0.23% (OD錠10mg)

5) その他

該当しない

2. 製剤の組成

1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤

品名	ゾルピデム 酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」	ゾルピデム 酒石酸塩錠 10mg「サワイ」	ゾルピデム 酒石酸塩OD錠 5 mg「サワイ」	ゾルピデム 酒石酸塩OD錠 10mg「サワイ」
有効成分 [1錠中]	日局ゾルピデム酒石酸塩			
	5 mg	10mg	5 mg	10mg
添加剤	カルナウバロウ、軽質無水ケイ酸、結晶セルロース、酸化チタン、三二酸化鉄、ステアリン酸Mg、タルク、デンプングリコール酸Na、乳糖、ヒプロメロース、マクロゴール6000		結晶セルロース、酸化Mg、三二酸化鉄、スクラロース、ステアリン酸Mg、バニリン、ヒドロキシプロピルセルロース、D-マンニトール、メタケイ酸アルミン酸Mg、香料	

2) 電解質等の濃度

該当資料なし

3) 熱量

該当資料なし

3. 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

4. 力価

該当しない

5. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

IV. 製剤に関する項目

6. 製剤の各種条件下における安定性

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」

1) PTP包装品の安定性(加速試験)⁴⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡いだいだい色の割線入りフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	102.0	100.2

※：表示量に対する含有率(%)

2) バラ包装品の安定性(加速試験)⁴⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡いだいだい色の割線入りフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	102.0	100.6

※：表示量に対する含有率(%)

3) 無包装下の安定性試験⁵⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C 75%RH 3 ヶ月)	室温散光 (なりゆき 3 ヶ月)
性状	淡いだいだい色の割線入りフィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
硬度 (kg)	4.6	4.6	5.1	5.2
定量試験※	100.0	99.9	98.9	98.6

保存条件	イニシャル	光 (総照射量 60万lx・hr)
性状	淡いだいだい色の割線入りフィルムコーティング錠	変化なし
硬度 (kg)	4.2	4.6
定量試験※	100.0	99.0

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

<補足>

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、溶出試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C 75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60万lx・hr)	室温 (25°C 60%RH 3 ヶ月)
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし

4) 分割後の安定性試験⁶⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」を割線で二分割後、各種条件下で保存し、分割面の性状を観察した。

その結果、光及び室温散光の条件下で性状変化が観察された。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C 75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60万lx・hr)	室温散光 (なりゆき 3 ヶ月)
分割面の性状	白色	白色	白色	帯黄白色	帯黄白色

IV. 製剤に関する項目

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」

1) PTP包装品の安定性(加速試験)⁷⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡いだいたい色の割線入りフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	100.7

※：表示量に対する含有率(%)

2) バラ包装品の安定性(加速試験)⁷⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡いだいたい色の割線入りフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	100.7

※：表示量に対する含有率(%)

3) 無包装下の安定性試験⁸⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C75%RH 3 ヶ月)	室温散光 (なりゆき 3 ヶ月)
性 状	淡いだいだい色の割線入り フィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし
硬 度 (k g)	6.5	6.7	7.8	7.6
定 量 試 験 ※	100.0	99.9	99.6	98.5

保存条件	イニシャル	光 (総照射量 60万lx・hr)
性 状	淡いだいだい色の割線入り フィルムコーティング錠	変化なし
硬 度 (k g)	6.0	6.4
定 量 試 験 ※	100.0	99.6

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

<補足>

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、溶出試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60 万lx・hr)	室温 (25°C60%RH 3 ヶ月)
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし

4) 分割後の安定性試験⁹⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」を割線で二分割後、各種条件下で保存し、分割面の性状を観察した。

その結果、光及び室温散光の条件下で性状変化が観察された。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60 万lx・hr)	室温散光 (なりゆき 3 ヶ月)
分割面の性状	白色	白色	白色	帯黄白色	帯黄白色

IV. 製剤に関する項目

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」

1) PTP包装品の安定性(加速試験)¹⁰⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	100.9	101.1

※：表示量に対する含有率(%)

2) バラ包装品の安定性(加速試験)¹⁰⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	100.9	101.1

※：表示量に対する含有率(%)

3) PTP包装品の安定性(長期保存試験)¹⁰⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	25°C60%RH・遮光 3年
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	100.9	100.1

※：表示量に対する含有率(%)

4)バラ包装品の安定性(長期保存試験)¹⁰⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	25°C60%RH・遮光 3年
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	100.9	100.7

※：表示量に対する含有率(%)

5)無包装下の安定性試験(苛酷試験)¹¹⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3カ月)	湿度 (25°C75%RH 3カ月)	光 (総照射量 120万lx・hr)	室温 (25°C60%RH 3カ月)
性状	淡赤色の割線入り素錠	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
硬度(kg)	3.7	3.7	3.3	3.2	3.3
崩壊試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
定量試験※	100.0	99.3	99.4	97.2	99.3

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」

1)PTP包装品の安定性(加速試験)¹²⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	101.3

※：表示量に対する含有率(%)

IV. 製剤に関する項目

2) バラ包装品の安定性(加速試験)¹²⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	101.0

※：表示量に対する含有率(%)

3) PTP包装品の安定性(長期保存試験)¹²⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	25°C60%RH・遮光 3年
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	100.3

※：表示量に対する含有率(%)

4) バラ包装品の安定性(長期保存試験)¹²⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	25°C60%RH・遮光 3年
性状	淡赤色の割線入り素錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
含量均一性試験	規格に適合	同左
崩壊試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
定量試験※	101.5	100.4

※：表示量に対する含有率(%)

5) 無包装下の安定性試験(苛酷試験)¹³⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 120万lx・hr)	室温 (25°C60%RH 3 ヶ月)
性 状	淡赤色の割線 入り素錠	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
硬 度 (k g)	4.5	4.6	4.4	4.1	4.4
崩 壊 試 験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶 出 試 験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
定 量 試 験*	100.0	99.0	99.1	97.5	99.1

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化(物理化学的変化)

該当資料なし

9. 溶出性

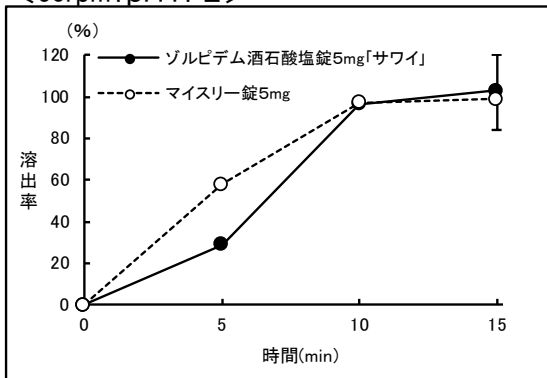
<溶出挙動における同等性及び類似性>

●ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」^{14,15)}

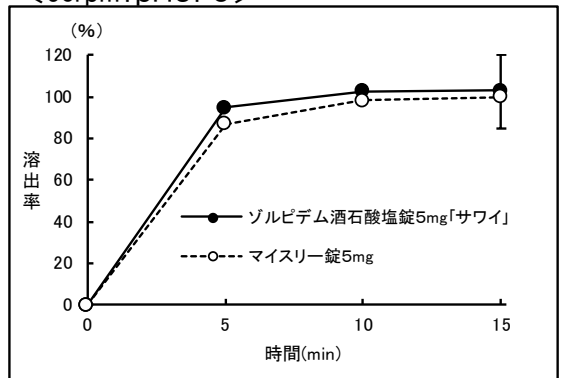
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号
試験条件	パドル法 50rpm(pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm(pH1.2)
試験回数	12 ベッセル
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」
標準製剤	マイスリー錠 5 mg
結果及び考察	<50rpm：pH1.2> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。 <50rpm：pH5.0> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。 <50rpm：pH6.8> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。 <50rpm：水> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。 <100rpm：pH1.2> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。 以上の結果より、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

IV. 製剤に関する項目

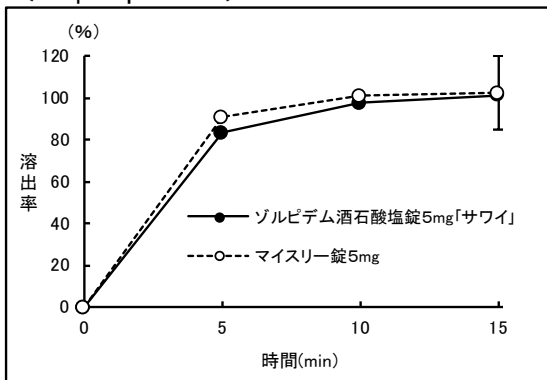
<50rpm:pH1.2>



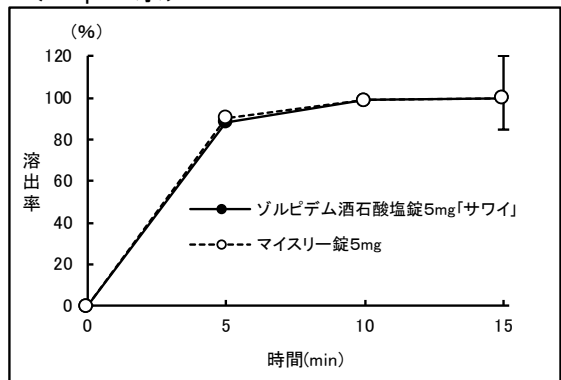
<50rpm:pH5.0>



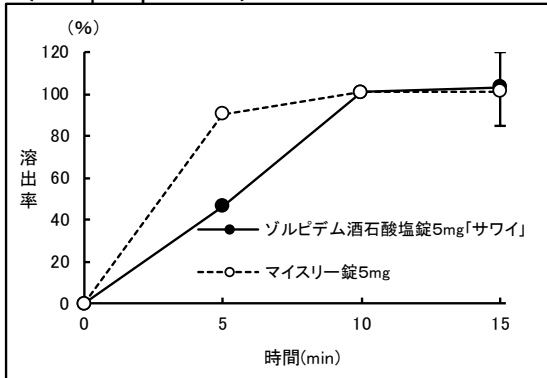
<50rpm:pH6.8>



<50rpm:水>



<100rpm:pH1.2>



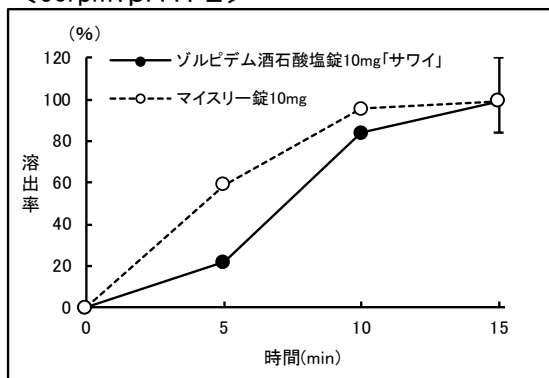
([] : 判定基準の適合範囲)

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」^{14, 16)}

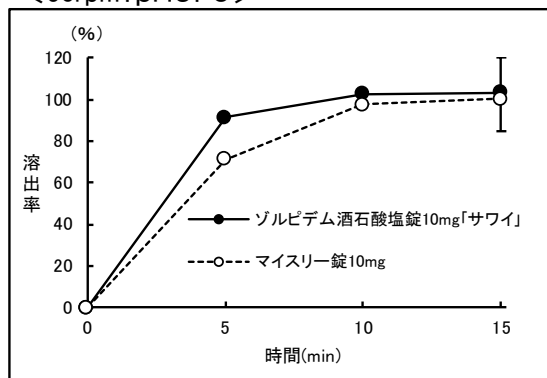
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」: 平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm(pH1.2)
試験回数	12ベッセル	
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」	
標準製剤	マイスリー錠10mg	

結果及び考察	<p><50rpm : pH1.2> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。</p> <p><50rpm : pH5.0> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。</p> <p><50rpm : pH6.8> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。</p> <p><50rpm : 水> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。</p> <p><100rpm : pH1.2> 両製剤とも 15 分以内に平均 85%以上溶出した。</p> <p>以上の結果より、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。</p>
--------	--

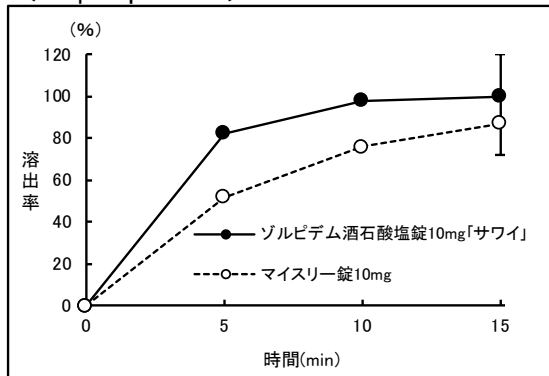
<50rpm : pH1.2>



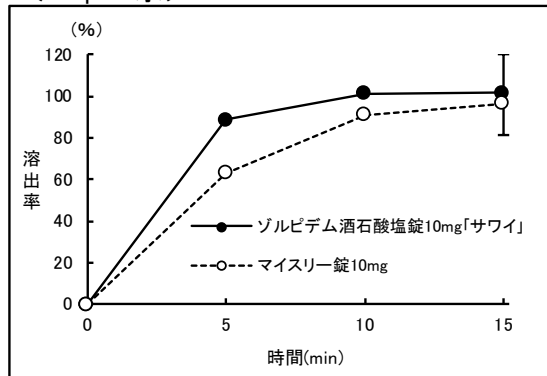
<50rpm : pH5.0>



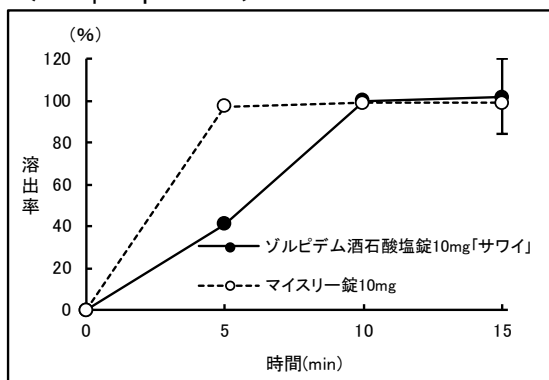
<50rpm : pH6.8>



<50rpm : 水>



<100rpm : pH1.2>



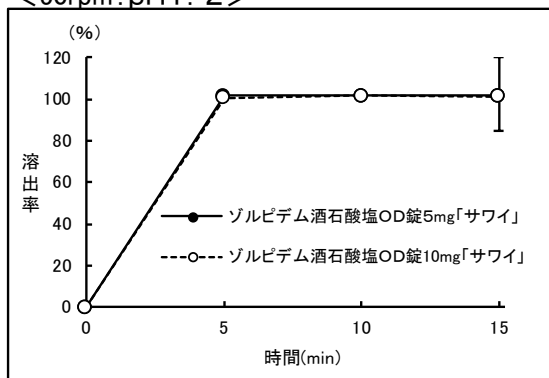
(I : 判定基準の適合範囲)

IV. 製剤に関する項目

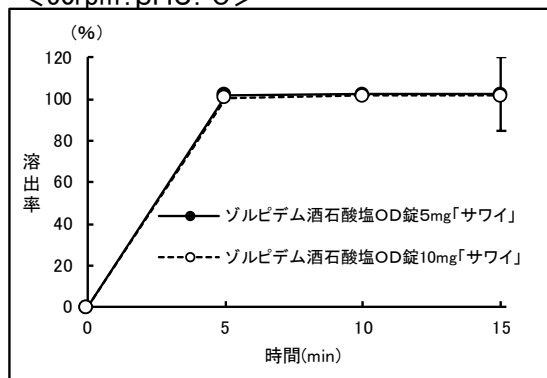
●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」¹⁷⁾

通知等	「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm(pH6.8)
試験回数	12 ベッセル	
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」	
標準製剤	ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」	
結果及び考察	<p><50rpm : pH1.2> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 最終比較時点(15分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p><50rpm : pH5.0> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 最終比較時点(15分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p><50rpm : pH6.8> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 最終比較時点(15分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p><50rpm : 水> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 最終比較時点(15分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p><100rpm : pH6.8> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 最終比較時点(15分)における試験製剤の個々の溶出率は、試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。</p> <p>以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。 本剤の処方変更水準はA水準であり、両製剤の溶出挙動は同等であったことから、両製剤は生物学的に同等であるとみなした。</p>	

<50rpm:pH1.2>

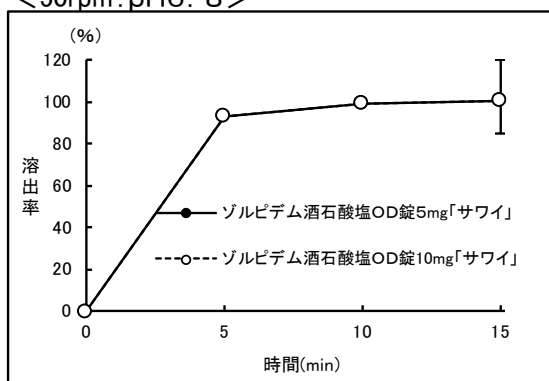


<50rpm:pH5.0>

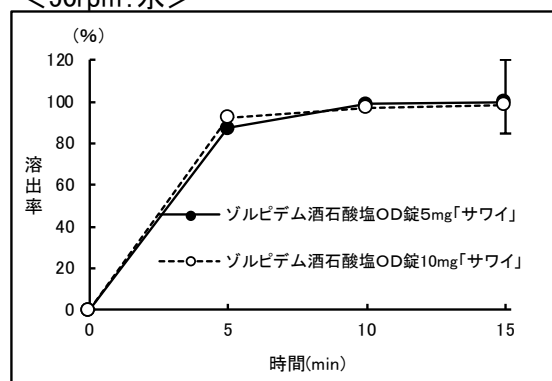


IV. 製剤に関する項目

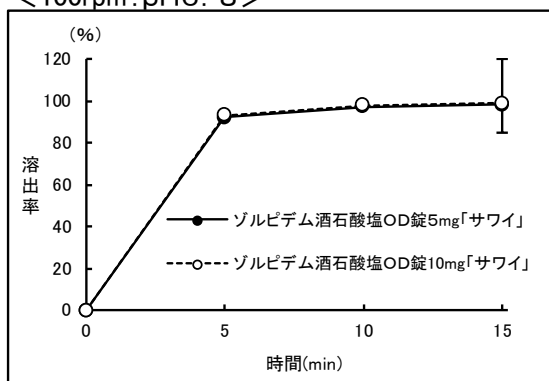
<50rpm:pH6.8>



<50rpm:水>



<100rpm:pH6.8>



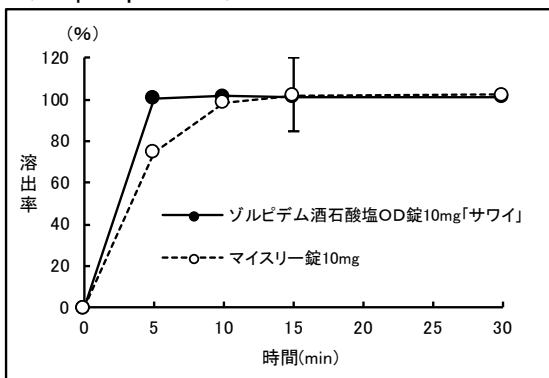
([] : 判定基準の適合範囲)

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」^{18,19)}

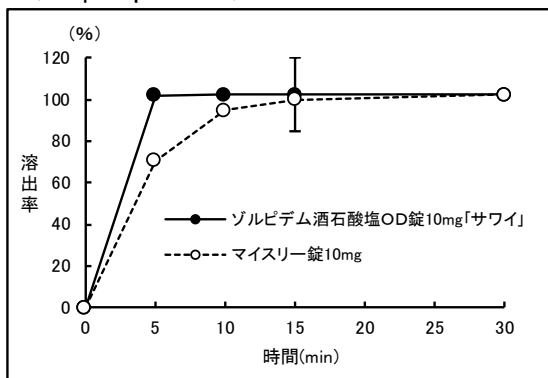
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、3.0、6.8、水)、100rpm(pH3.0)
試験回数	12 ベッセル	
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩OD錠 10mg「サワイ」	
標準製剤	マイスリー錠 10mg	
結果及び考察	<50rpm：pH1.2> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 <50rpm：pH3.0> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 <50rpm：pH6.8> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 <50rpm：水> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 <100rpm：pH3.0> 両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。 以上の結果より、両製剤の溶出挙動は類似していると判断した。	

IV. 製剤に関する項目

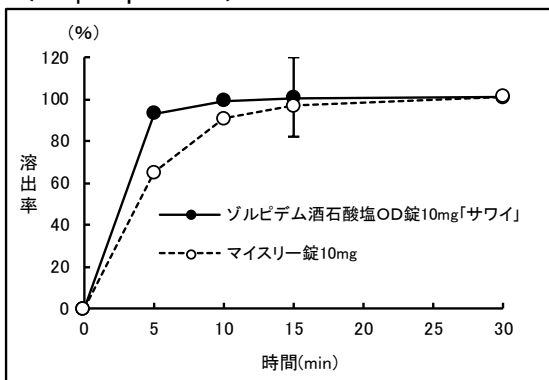
<50rpm:pH1. 2>



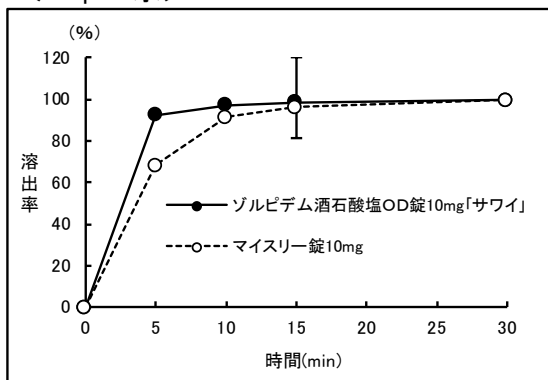
<50rpm:pH3. 0>



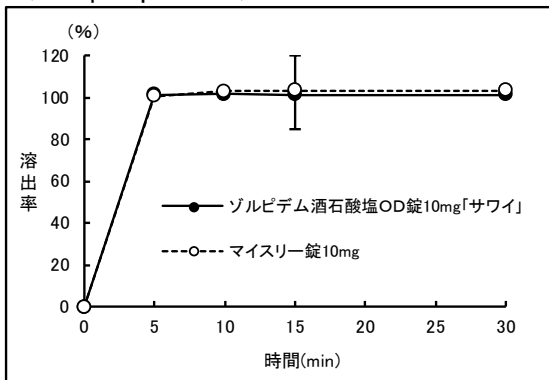
<50rpm:pH6. 8>



<50rpm:水>



<100rpm:pH3. 0>



([] : 判定基準の適合範囲)

10. 容器・包装

1) 注意が必要な容器・包装、外観が特殊な容器・包装に関する情報

該当資料なし

2) 包装

22. 包装

<ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」>

PTP : 100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)

バラ : 500錠

<ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」>

PTP : 100錠(10錠×10)

バラ : 500錠

〈ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」〉
 PTP：100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)
 バラ〔乾燥剤入り〕：500錠
 〈ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」〉
 PTP：100錠(10錠×10)
 バラ〔乾燥剤入り〕：500錠

3) 予備容量

該当しない

4) 容器の材質

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg/錠10mg「サワイ」

PTP：[PTPシート]ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔、[ピロー]ポリエチレンフィルム
 バラ：[本体]ポリエチレン瓶、[キャップ]ポリプロピレン

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg/OD錠10mg「サワイ」

PTP：[PTPシート]ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔
 [ピロー]アルミラミネートフィルム
 バラ：[本体]ポリエチレン瓶、[キャップ]ポリエチレン、ポリプロピレン

11. 別途提供される資材類

該当しない

12. その他

〈自動分包機錠剤落下試験〉

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」²⁰⁾

湯山製作所製自動分包機による試験

試験機器：YS-TR-330/260FDS II (ユヤマ)

試験方法：本剤の無包装品について、最上段及び最下段のカセットからそれぞれ30錠落下させ分包した。

試験結果

イニシャル	25°C75%RH2週間保存品
一包化された錠剤に割れ、欠けは認められなかった。	一包化された錠剤に割れ、欠けは認められなかった。

〈参考：加湿による錠剤サイズの変化〉

イニシャル		→	25°C75%RH2週間保存品	
直径(mm)	厚み(mm)		直径(mm)	厚み(mm)
6.52	2.70		6.58	2.78

IV. 製剤に関する項目

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」²¹⁾

湯山製作所製自動分包機による試験

試験機器： YS-TR-330/260FDS II (ユヤマ)

試験方法： 本剤の無包装品について、最上段及び最下段のカセットからそれぞれ30錠落下させ分包した。

試験結果

イニシャル	25°C75%RH2週間保存品
一包化された錠剤に割れ、欠けは認められなかった。	一包化された錠剤に割れ、欠けは認められなかった。

<参考：加湿による錠剤サイズの変化>

イニシャル		→	25°C75%RH2週間保存品	
直径 (mm)	厚み (mm)		直径 (mm)	厚み (mm)
8.52	3.30		8.59	3.41

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

4. 効能又は効果

不眠症(統合失調症及び躁うつ病に伴う不眠症は除く)

2. 効能又は効果に関連する注意

5. 効能又は効果に関連する注意

本剤の投与は、不眠症の原疾患を確定してから行うこと。なお、統合失調症あるいは躁うつ病に伴う不眠症には本剤の有効性は期待できない。

3. 用法及び用量

1) 用法及び用量の解説

6. 用法及び用量

通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。

2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

4. 用法及び用量に関連する注意

7. 用法及び用量に関連する注意

〈製剤共通〉

7.1 本剤に対する反応には個人差があり、また、もうろう状態、睡眠随伴症状(夢遊症状等)は用量依存的にあらわれるので、本剤を投与する場合には少量(1回5mg)から投与を開始すること。やむを得ず増量する場合は観察を十分に行いながら慎重に投与すること。ただし、10mgを超えないこととし、症状の改善に伴って減量に努めること。[1.、7.2、11.1.3参照]

7.2 本剤を投与する場合、就寝の直前に服用させること。また、服用して就寝した後、患者が起床して活動を開始するまでに十分な睡眠時間がとれなかった場合、又は睡眠途中において一時的に起床して仕事等を行った場合などにおいて健忘があらわれたとの報告があるので、薬効が消失する前に活動を開始する可能性があるときは服用させないこと。[1.、7.1、11.1.3参照]

7.3 高齢者に投与する場合、少量(1回5mg)から投与を開始し、1回10mgを超えないこと。[9.8、16.6.3参照]

〈OD錠〉

7.4 本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜から吸収されることはないため、唾液又は水で飲み込むこと。[14.2.2参照]

5. 臨床成績

1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

V. 治療に関する項目

2) 臨床薬理試験

該当資料なし

3) 用量反応探索試験

該当資料なし

4) 検証的試験

(1) 有効性検証試験

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 国内後期第Ⅱ相用量検索二重盲検群間比較試験

不眠を主訴とし、常時睡眠薬の投与を必要とする慢性不眠症患者を対象に、ゾルピデム酒石酸塩錠(5mg、10mg、15mg^{注1})又はプラセボを1日1回就寝直前に14日間投与した。主治医の評価による睡眠症状全般改善度の「中等度改善」以上の改善率はプラセボ群で27.8%(10例/36例)、5mg群で52.6%(20例/38例)、10mg群で60.0%(24例/40例)、15mg群^{注2}で55.3%(21例/38例)であった。改善率の検定で10mg群、15mg群^{注2}がプラセボ群に有意に優り(いずれも $p < 0.05$)、順位和検定では5mg、10mg、15mg群^{注2}のすべてがプラセボ群に有意に優った(いずれも $p < 0.01$)²²⁾。

副作用発現率は、プラセボ群で14.6%(7例/48例)、内訳はふらつき、頭痛、頭重感、悪夢、倦怠感各2件など、5mg群で12.2%(6例/49例)、内訳は眠気3件、倦怠感、倦怠感の悪化、疲労感の悪化各2件など、10mg群で14.9%(7例/47例)、内訳は頭痛、倦怠感各3件、ふらつき、頭重感、疲労感各2件など、15mg群^{注2}で16.0%(8例/50例)、内訳は眠気2件などであった²²⁾。

17.1.2 国内第Ⅲ相二重盲検群間比較試験(Nitrazepam対照)

常時睡眠薬の投与を必要とする不眠症患者を対象に、ゾルピデム酒石酸塩錠10mg又はNitrazepam 5mgを1日1回就寝直前に14日間投与した。睡眠症状全般改善度の「中等度改善」以上の改善率はゾルピデム酒石酸塩群で65.6%(42例/64例)、Nitrazepam群で52.2%(35例/67例)であり、U検定でゾルピデム酒石酸塩群が有意に優った($p < 0.05$)²³⁾。副作用発現率は、ゾルピデム酒石酸塩群で16.5%(13例/79例)、内訳はふらつき、倦怠感各5件、眠気、残眠感各4件、めまい3件、記憶障害、頭痛各2件などであり、Nitrazepam群で18.8%(15例/80例)、内訳はふらつき5件、眠気3件、めまい、倦怠感、頭痛、悪心各2件などで両群の間に差は認められなかった²³⁾。

17.1.3 国内第Ⅲ相二重盲検群間比較試験(Triazolam対照)

常時睡眠薬の投与を必要とする不眠症患者を対象に、ゾルピデム酒石酸塩錠10mg又はTriazolam 0.25mgを1日1回就寝直前に14日間投与した。睡眠症状全般改善度の「中等度改善」以上の改善率はゾルピデム酒石酸塩群で63.5%(40例/63例)、Triazolam群で75.0%(51例/68例)であり、両群間に有意な差は認められなかった²⁴⁾。また、改善率の差の90%信頼区間は-26.2%~3.2%であり、 $\Delta = 10\%$ とした時の同等性推論では、ゾルピデム酒石酸塩群のTriazolam群に対する同等性(非劣性)は証明されなかった。

副作用発現率は、ゾルピデム酒石酸塩群で9.7%(7例/72例)、内訳は頭痛2件など、Triazolam群で4.1%(3例/74例)で、両群間に有意差は認められなかった²⁴⁾。

17.1.4 国内第Ⅲ相二重盲検群間比較試験(同等性検証試験)(Zopiclone対照)

週3回以上の不眠を有する慢性不眠症患者(ICD-10を参考として診断)を対象に、ゾルピデム酒石酸塩錠10mg又はZopiclone 7.5mgを1日1回就寝直前に14日間投与した。睡眠症状全般改善度の「中等度改善」以上の改善率はゾルピデム酒石酸塩群で67.9%(142例/209例)、Zopiclone群で61.6%(135例/219例)であった²⁵⁾。また、改善率の差の90%信頼区間は-1.7%~14.3%であり、臨床的に許容できると考えられる改善率の差 $\Delta=10\%$ とした時の同等性推論では、ゾルピデム酒石酸塩群のZopiclone群に対する同等性(非劣性)が検証された。

副作用発現率は、ゾルピデム酒石酸塩群で31.3%(66例/211例)、内訳は頭痛15件、眠気13件、ふらつき9件、悪心、口渇各8件、苦味6件、残眠感5件など、Zopiclone群で45.3%(102例/225例)、内訳は苦味69件、残眠感12件、眠気、頭痛各9件、ふらつき8件、悪心6件、頭重感、倦怠感各5件などで、Zopiclone群が有意に高かった($p<0.01$)²⁵⁾。

注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人には本剤1回5~10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

(2) 安全性試験

該当資料なし

5) 患者・病態別試験

該当資料なし

6) 治療的使用**(1) 使用成績調査(一般使用成績調査、特定使用成績調査、使用成績比較調査)、製造販売後データベース調査、製造販売後臨床試験の内容**

該当資料なし

(2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要

該当しない

7) その他

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ベンゾジアゼピン受容体刺激作用(短時間作用型)：トリアゾラム、リルマザホン塩酸塩、ロルメタゼパム、ゾピクロン、エスゾピクロン、ブロチゾラム²⁶⁾

注意：関連のある化合物の効能又は効果等は、最新の電子添文を参照すること。

2. 薬理作用

1) 作用部位・作用機序

18.1 作用機序

ゾルピデム酒石酸塩は、 ω_1 (BZD₁)受容体に対して選択的な親和性を示し、GABA_A系の抑制機構を増強するものと考えられる^{1, 2)}。

2) 薬効を裏付ける試験成績

18.2 夜間睡眠に及ぼす影響

ゾルピデム酒石酸塩錠10mgを健康成人に就寝前に投与すると、睡眠潜時を短縮し²⁷⁾、睡眠後はREM睡眠に影響することなく徐波睡眠を増加させ、翌朝への持ち越し効果、反跳現象はみられなかった^{27~31)}。

18.3 記憶機能に対する作用

健康成人にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを投与した1時間後には明らかな催眠作用がみられたが、翌朝の記憶検査では影響はみられなかった^{32~35)}。

18.4 動物の脳波に対する作用

ゾルピデム酒石酸塩は、サル、ネコ及びラットにおいて、より選択的に徐波睡眠を増加させた^{36~38)}。ネコ及びラットの覚醒-睡眠パターンに対する影響は少なかった^{39, 40)}。ラットにおいて、作用発現は速やかで、持続は短かった³⁸⁾。

18.5 その他の中枢作用

ゾルピデム酒石酸塩は、マウスにおいて、鎮静作用の他に、抗痙攣作用、筋弛緩作用等を示すが、鎮静作用が最も少量であらわれた⁴¹⁾。また、ラットにおいて、抗不安作用を示した⁴²⁾。

18.6 反復投与の影響

ゾルピデム酒石酸塩は、マウスにおいて、反復投与しても耐性の形成は弱かった⁴³⁾。

3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移

1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

2) 臨床試験で確認された血中濃度

16.1 血中濃度

16.1.1 健康成人

健康成人6例にゾルピデム酒石酸塩錠2.5～10mg^{註)}を空腹時に単回経口投与したところ、ゾルピデムは速やかに吸収され、投与後0.7～0.9時間に最高血漿中濃度(Cmax)に達した後、消失半減期($t_{1/2}$)1.78～2.30時間で速やかに減少した。Cmax及び血漿中濃度-時間曲線下面積(AUC)は投与量に比例して増加した⁴⁴⁾。また、健康成人6例にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを1日1回7日間朝食後に経口投与したところ、血漿中濃度推移は1日目と7日目ではほぼ同じであった⁴⁴⁾。

単回経口投与時の薬物速度論的パラメータ

投与量 (mg)	Tmax (h)	Cmax (ng/mL)	$t_{1/2}$ (h)	AUC _{0-∞} (ng・h/mL)
2.5	0.7±0.3	32.6±9.6	1.78±0.48	96±58
5.0	0.8±0.3	76.2±29.7	2.06±1.18	259±218
7.5	0.9±0.6	102±42	1.86±0.47	330±163
10.0	0.8±0.3	120±73	2.30±1.48	491±474

(Mean±S. D.)

注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

<生物学的同等性試験>

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」^{14, 45)}

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.17、0.33、0.5、1、1.5、2、4、6、8 hr
休薬期間	7日間
測定方法	高速液体クロマトグラフィー
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」
標準製剤	マイスリー錠5mg

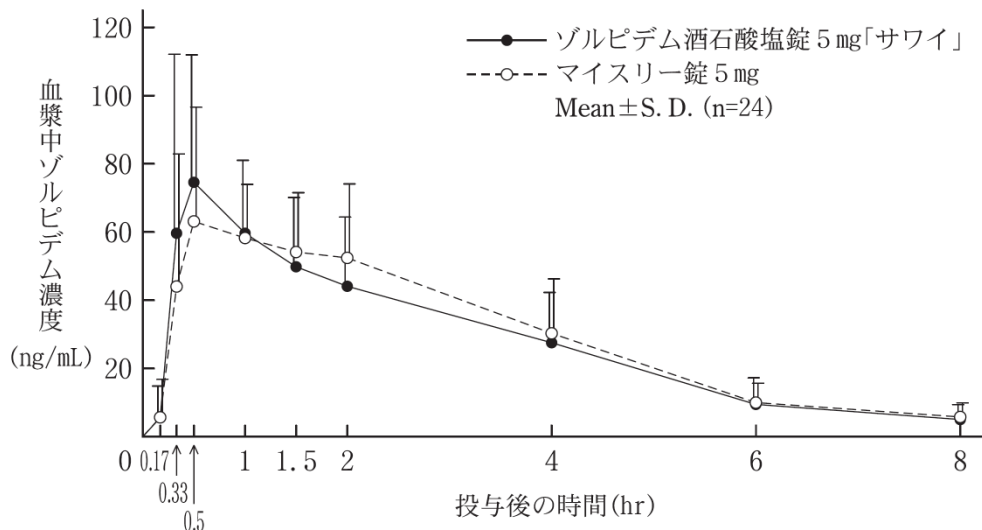
ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」とマイスリー錠5mgを健康成人男子にそれぞれ1錠(ゾルピデム酒石酸塩として5mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中ゾルピデム濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC_t、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.8)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

VII. 薬物動態に関する項目

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-8hr} (ng・hr/mL)
ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」	91.6±36.1	0.7±0.8	1.7±0.4	224.5±84.8
マイスリー錠5mg	85.8±20.6	0.8±0.6	1.8±0.3	237.3±79.3

(Mean±S.D.)



	対数値の平均値の差	対数値の平均値の差の90%信頼区間
AUC _{0-8hr}	log(0.92)	log(0.84)～log(1.01)
Cmax	log(1.02)	log(0.89)～log(1.18)

血漿中濃度ならびにAUC_t、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」^{14, 46)}

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.33、0.67、1、1.33、1.67、2、4、6、8、12hr
休薬期間	7日間
測定方法	高速液体クロマトグラフィー
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
標準製剤	マイスリー錠10mg

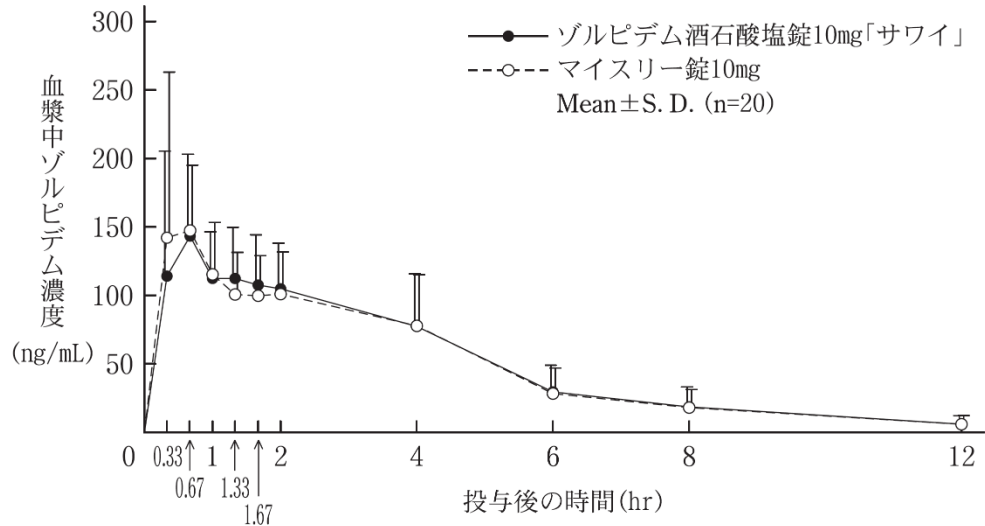
ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」とマイスリー錠10mgを健康成人男子にそれぞれ1錠(ゾルピデム酒石酸塩として10mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中ゾルピデム濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC_t、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.8)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

VII. 薬物動態に関する項目

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-12hr} (ng・hr/mL)
ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」	184.3±59.9	0.9±0.9	2.5±0.5	600.6±210.7
マイスリー錠10mg	200.6±80.8	0.8±0.9	2.4±0.6	598.0±201.2

(Mean±S.D.)



	対数値の平均値の差	対数値の平均値の差の90%信頼区間
AUC _{0-12hr}	log (1.00)	log (0.94) ~ log (1.07)
Cmax	log (0.94)	log (0.81) ~ log (1.08)

血漿中濃度ならびにAUC_t、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」¹⁷⁾

16.8 その他

〈ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」〉

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」は溶出挙動に基づき、ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」と生物学的に同等とみなされた。

IV. -9. 参照

VII. 薬物動態に関する項目

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」^{18,47)}

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号
採血時点	0、0.17、0.33、0.5、1、1.5、2、4、6、8hr
休薬期間	2日間
測定方法	LC/MS法
試験製剤	ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
標準製剤	マイスリー錠10mg

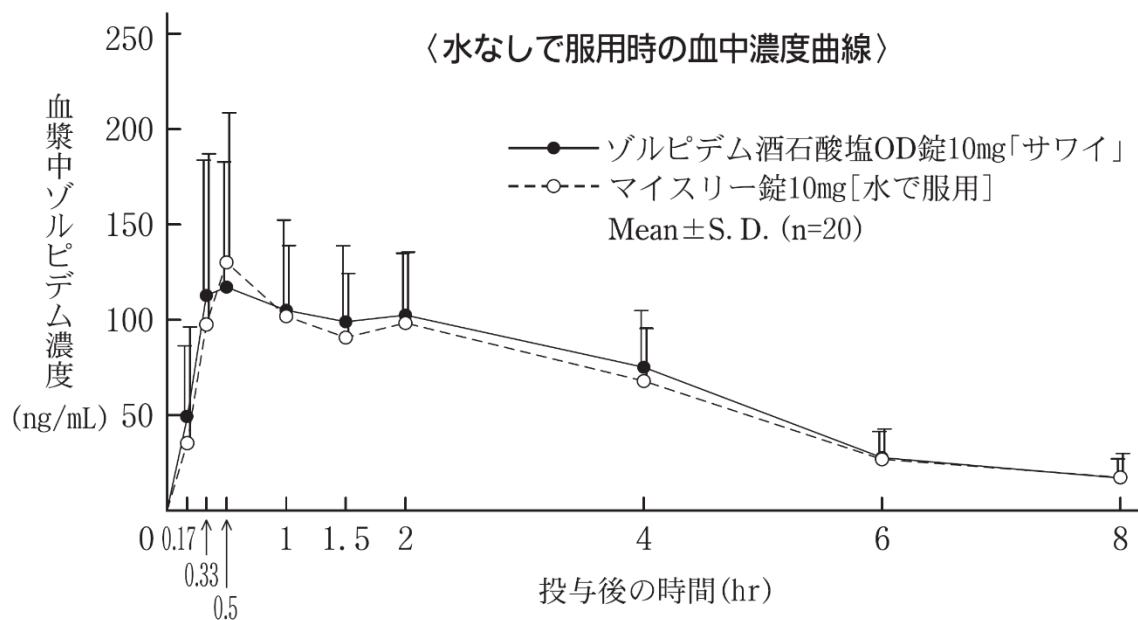
ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」(水なし又は水で服用)とマイスリー錠10mg(水で服用)を健康成人男子にそれぞれ1錠(ゾルピデム酒石酸塩として10mg)空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中ゾルピデム濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUCt、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

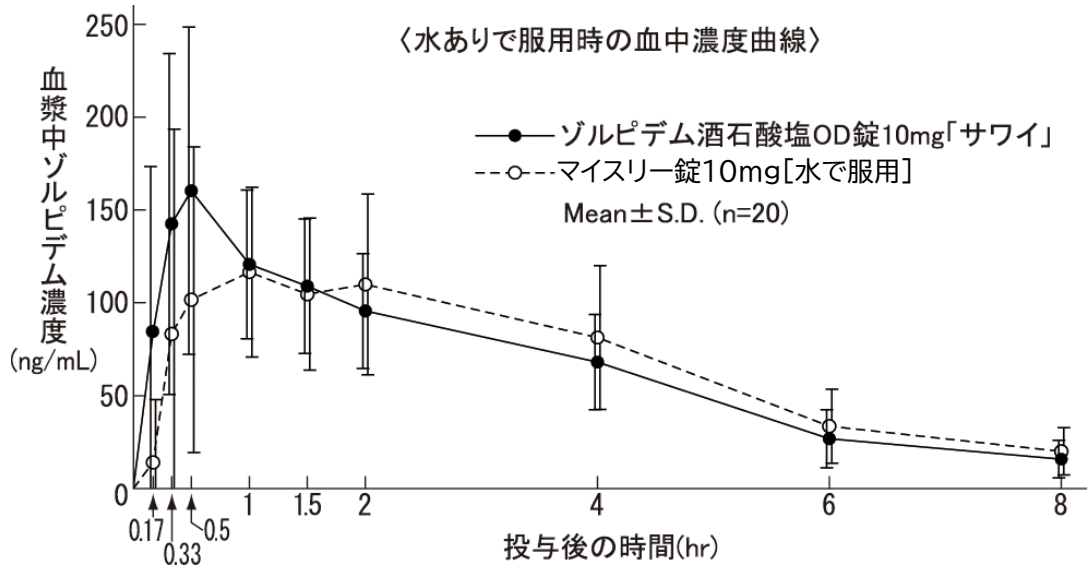
各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

		Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-8hr} (ng・hr/mL)
※ 水なし	ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」	160.6±40.5	1.0±1.0	1.9±0.4	518.9±123.4
	マイスリー錠10mg	176.4±58.4	1.0±1.0	2.1±0.7	491.7±151.5
水あり	ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」	190.1±86.4	0.8±0.9	2.0±0.5	531.0±173.6
	マイスリー錠10mg	172.0±73.4	1.4±1.1	2.0±0.4	546.7±194.1

※マイスリー錠10mgは水で服用

(Mean±S.D., n=20)





血漿中濃度ならびにAUCt、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

3) 中毒域

該当資料なし

4) 食事・併用薬の影響

16.2.2 食事の影響

健康成人6例にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを朝食後経口投与すると、空腹時投与に比べて最高血漿中濃度到達時間(Tmax)は0.8±0.3時間(Mean±S.D.)から1.8±1.2時間(Mean±S.D.)に遅延する傾向にあったが、Cmax、AUCともに大きな差はなかった^{44, 48)}。

16.7 薬物相互作用

16.7.1 リファンピシン

健康成人8例にリファンピシン600mg又はプラセボを1日1回5日間経口投与し、翌日、ゾルピデム酒石酸塩20mg^{注)}を経口投与したとき、リファンピシン併用時におけるゾルピデムのCmax、AUC及びt_{1/2}はプラセボ併用時に比べてそれぞれ58、73及び33%の有意な低下が認められた⁴⁹⁾。[10.2参照]

注) 本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

VIII. -7. 参照

2. 薬物速度論的パラメータ

1) 解析方法

該当資料なし

2) 吸収速度定数

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

3) 消失速度定数

- ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」を健康成人男子に 1 錠(ゾルピデム酒石酸塩として 5 mg)空腹時単回経口投与した場合の消失速度定数^{14, 45)}
0.414±0.087hr⁻¹
- ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」を健康成人男子に 1 錠(ゾルピデム酒石酸塩として 10mg)空腹時単回経口投与した場合の消失速度定数^{14, 46)}
0.295±0.066hr⁻¹
- ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」を健康成人男子に 1 錠(ゾルピデム酒石酸塩として 10mg)空腹時単回経口投与した場合の消失速度定数^{18, 47)}
[水なし]0.367±0.062hr⁻¹、[水あり]0.376±0.095hr⁻¹

4) クリアランス

該当資料なし

5) 分布容積

該当資料なし

6) その他

該当資料なし

3. 母集団(ポピュレーション)解析

1) 解析方法

該当資料なし

2) パラメータ変動要因

該当資料なし

4. 吸収

16.2 吸収

16.2.1 バイオアベイラビリティ

健康成人にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを経口投与又はゾルピデム酒石酸塩 8 mgを静脈内投与^{注)}して求めたバイオアベイラビリティは66.6%であった^{50, 51)}(外国人データ)。

注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

5. 分布

1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

2) 血液-胎盤関門通過性

VIII. -6. -5) 参照

3) 乳汁への移行性

16.3 分布

16.3.1 乳汁中への移行

授乳中の女性5例にゾルピデム酒石酸塩錠20mg^{注)}を経口投与したとき、未変化体の乳汁中排泄率は投与量の0.004~0.019%であった。投与後3時間目の乳汁中/血漿中濃度比は0.11~0.18であった⁵²⁾(外国人データ)。^[9.6参照]

注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5~10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

VIII. -6. -6) 参照

4) 髄液への移行性

該当資料なし

5) その他の組織への移行性

該当資料なし

6) 血漿蛋白結合率

16.3.2 蛋白結合率

健康成人にゾルピデム酒石酸塩10mgを経口投与した後の血漿蛋白結合率は96.0~96.3%であり、血漿中濃度50及び500ng/mLでの*in vitro*蛋白結合率との間に差は認められなかった⁵³⁾。

6. 代謝

1) 代謝部位及び代謝経路

16.4 代謝

ゾルピデムの大部分は肝で代謝され、その主なものは芳香環のメチル基が酸化されてカルボン酸となった薬理活性を有しない代謝物であった⁵⁴⁾。また、ゾルピデムは肝薬物代謝酵素CYP3A4のほかCYP2C9、CYP1A2など複数の分子種により代謝される^{55,56)}。^[10.参照]

2) 代謝に関与する酵素(CYP等)の分子種、寄与率

VII. -6. -1) 参照

3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

4) 代謝物の活性の有無及び活性比、存在比率

VII. -6. -1) 参照

Ⅶ. 薬物動態に関する項目

7. 排泄

16.5 排泄

健康成人6例にゾルピデム酒石酸塩錠2.5～10mg^{註)}を空腹時に単回経口投与したところ、投与後24時間までの尿中に排泄された未変化体は、いずれの投与量においても投与量の0.5%以下とごくわずかであった⁴⁴⁾。また、健康成人6例にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを1日1回7日間朝食後に経口投与したところ、投与初日、4及び7日目投与後24時間の尿中未変化体排泄率は単回投与時と同様、投与量の0.5%以下であった⁴⁴⁾。
 注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

8. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

9. 透析等による除去率

Ⅷ. -10. 参照

10. 特定の背景を有する患者

16.6 特定の背景を有する患者

16.6.1 腎機能障害患者

慢性腎障害を有する患者16例(Ccr: 0～47mL/min)にゾルピデム酒石酸塩10mgを20分間静脈内持続注入^{註)}したところ、健康成人に比べβ相での分布容量(Vd_β)のみ有意に大きかった⁵⁷⁾(外国人データ)。
 また、透析を受けている慢性腎障害患者9例にゾルピデム酒石酸塩錠10mgを1日1回13～18日間経口投与したときの血漿中濃度は単回投与時とほぼ同じであり、血中での蓄積は認められなかった⁵⁸⁾(外国人データ)。^[9.2参照]

16.6.2 肝機能障害患者

肝硬変患者8例にゾルピデム酒石酸塩錠20mg^{註)}を経口投与したところ、同年齢の健康成人に比べてCmaxは2.0倍、AUCは5.3倍大きかった⁵⁹⁾(外国人データ)。^[2.2、9.3.1、9.3.2参照]

肝硬変患者における薬物速度論的パラメータ

対象	Tmax (h)	Cmax (ng/mL)	t _{1/2} (h)	AUC _{0-∞} (ng・h/mL)
肝硬変患者	0.69±0.54	499±215	9.91±7.57*	4203±3773
健康成人	0.72±0.42	250±57	2.15±0.25	788±279

(Mean±S. D.、※のみn=7)

16.6.3 高齢者

高齢患者7例(67～80歳、平均75歳)にゾルピデム酒石酸塩錠5mgを経口投与したところ、高齢患者の方が健康成人に比べてCmaxで2.1倍、Tmaxで1.8倍、AUCで5.1倍、t_{1/2}で2.2倍大きかった⁶⁰⁾。^[7.3、9.8参照]

注)本剤の承認された用法及び用量は「通常、成人にはゾルピデム酒石酸塩として1回5～10mgを就寝直前に経口投与する。なお、高齢者には1回5mgから投与を開始する。年齢、症状、疾患により適宜増減するが、1日10mgを超えないこととする。」である。

11. その他

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

1. 警告

本剤の服用後に、もうろう状態、睡眠随伴症状(夢遊症状等)があらわれることがある。また、入眠までの、あるいは中途覚醒時の出来事を記憶していないことがあるので注意すること。[7.1、7.2、11.1.3参照]

2. 禁忌内容とその理由

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 重篤な肝障害のある患者[9.3.1、16.6.2参照]
- 2.3 重症筋無力症の患者[筋弛緩作用により症状を悪化させるおそれがある。]
- 2.4 急性閉塞隅角緑内障の患者[眼圧が上昇し、症状を悪化させるおそれがある。]
- 2.5 本剤により睡眠随伴症状(夢遊症状等)として異常行動を発現したことがある患者[重篤な自傷・他傷行為、事故等に至る睡眠随伴症状を発現するおそれがある。]

3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

V. -2. 参照

4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

V. -4. 参照

5. 重要な基本的注意とその理由

8. 重要な基本的注意

- 8.1 連用により薬物依存を生じることがあるので、漫然とした継続投与による長期使用を避けること。本剤の投与を継続する場合には、治療上の必要性を十分に検討すること。[11.1.1参照]
- 8.2 本剤の影響が翌朝以後に及び、眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起こることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

6. 特定の背景を有する患者に関する注意

1) 合併症・既往歴等のある患者

9.1 合併症・既往歴等のある患者

- 9.1.1 肺性心、肺気腫、気管支喘息及び脳血管障害の急性期などで呼吸機能が高度に低下している患者
治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与しない。呼吸抑制により炭酸ガスナルコーシスを起こしやすい。[11.1.4参照]
- 9.1.2 衰弱患者
薬物の作用が強くあらわれ、副作用が発現しやすい。
- 9.1.3 心障害のある患者
血圧低下があらわれるおそれがあり、症状の悪化につながるおそれがある。
- 9.1.4 脳に器質的障害のある患者
作用が強くあらわれるおそれがある。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

2) 腎機能障害患者

9.2 腎機能障害患者

排泄が遅延し、作用が強くあらわれるおそれがある。[16.6.1参照]

3) 肝機能障害患者

9.3 肝機能障害患者

9.3.1 重篤な肝障害のある患者

投与しないこと。代謝機能の低下により血中濃度が上昇し、作用が強くあらわれるおそれがある。[2.2、16.6.2参照]

9.3.2 肝障害のある患者(重篤な肝障害のある患者を除く)

代謝機能の低下により血中濃度が上昇し、作用が強くあらわれるおそれがある。[16.6.2参照]

4) 生殖能を有する者

設定されていない

5) 妊婦

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。本薬はヒトで胎盤を通過することが報告されており、妊娠後期に本剤を投与された患者より出生した児に呼吸抑制、痙攣、振戦、易刺激性、哺乳困難等の離脱症状があらわれることがある。なお、これらの症状は、新生児仮死として報告される場合もある。

6) 授乳婦

9.6 授乳婦

授乳を避けさせること。母乳中へ移行することが報告されており、新生児に嗜眠を起こすおそれがある。[16.3.1参照]

7) 小児等

9.7 小児等

小児等を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は実施していない。

8) 高齢者

9.8 高齢者

運動失調が起りやすい。また、副作用が発現しやすい。[7.3、16.6.3参照]

7. 相互作用

10. 相互作用

本剤は、主として肝薬物代謝酵素CYP3A4及び一部CYP2C9、CYP1A2で代謝される。[16.4参照]

1) 併用禁忌とその理由

設定されていない

2) 併用注意とその理由

10.2 併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
麻酔剤	呼吸抑制があらわれることがあるので、慎重に投与すること。	相加的に呼吸が抑制される可能性がある。
中枢神経抑制剤 フェノチアジン誘導體 バルビツール酸誘導體 等	相互に中枢神経抑制作用が増強することがあるので、慎重に投与すること。	本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有する。
アルコール(飲酒)	精神機能・知覚・運動機能等の低下が増強することがあるので、できるだけ飲酒を控えさせること。	アルコールはGABA _A 受容体に作用すること等により中枢神経抑制作用を示すため、併用により相互に中枢神経抑制作用を増強することがある。
リファンピシン [16.7.1参照]	本剤の血中濃度が低下し、作用が減弱するおそれがある。	薬物代謝酵素CYP3A4が誘導され、本剤の代謝が促進される。

8. 副作用

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1) 重大な副作用と初期症状

11.1 重大な副作用

11.1.1 依存性、離脱症状

連用により薬物依存(頻度不明)を生じることがあるので、観察を十分に行い、用量及び使用期間に注意し慎重に投与すること。また、連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、反跳性不眠、いらいら感等の離脱症状(0.1～5%未満)があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、徐々に減量するなど慎重に行うこと。[8.1参照]

11.1.2 精神症状、意識障害

せん妄(頻度不明)、錯乱(0.1～5%未満)、幻覚、興奮、脱抑制(各0.1%未満)、意識レベルの低下(頻度不明)等の精神症状及び意識障害があらわれることがある。

11.1.3 一過性前向き健忘(0.1～5%未満)、もうろう状態(頻度不明)、睡眠随伴症状(夢遊症状等)(頻度不明)

服薬後は直ぐ就寝させ、睡眠中に起こさないように注意すること。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶していないとの報告がある。また、死亡を含む重篤な自傷・他傷行為、事故等の報告もある。[1.、7.1、7.2参照]

11.1.4 呼吸抑制(頻度不明)

呼吸機能が高度に低下している患者に投与した場合、炭酸ガスナルコーシスを起こすことがあるので、このような場合には気道を確保し、換気をはかるなど適切な処置を行うこと。[9.1.1参照]

11.1.5 肝機能障害、黄疸

AST、ALT、 γ -GTP、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)があらわれることがある。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

2) その他の副作用

11.2 その他の副作用			
	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
精神神経系	ふらつき、眠気、頭痛、残眠感、頭重感、めまい、不安、悪夢、気分高揚	錯視	しびれ感、振戦
血液	白血球増多、白血球減少		
肝臓	ALT上昇、 γ -GTP上昇、AST上昇、LDH上昇		
腎臓	蛋白尿		
消化器	悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛	下痢	口の錯感覚、食欲亢進
循環器	動悸		
過敏症	発疹、そう痒感		
骨格筋	倦怠感、疲労、下肢脱力感		筋痙攣
眼	複視		視力障害、霧視
その他	口渇、不快感		味覚異常、転倒 ^{注1)}

注1) 転倒により高齢者が骨折する例が報告されている。

9. 臨床検査結果に及ぼす影響
 設定されていない

10. 過量投与

<p>13. 過量投与</p> <p>13.1 症状</p> <p>本剤単独の過量投与では、傾眠から昏睡までの意識障害が報告されているが、さらに中枢神経抑制症状、血圧低下、呼吸抑制、無呼吸等の重度な症状があらわれるおそれがある。</p> <p>13.2 処置</p> <p>本剤の過量投与が明白又は疑われた場合の処置としてフルマゼニル(ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤)を投与する場合には、使用前にフルマゼニルの使用上の注意を必ず読むこと。なお、本剤は血液透析では除去されない。</p>

11. 適用上の注意

<p>14. 適用上の注意</p> <p>14.1 薬剤調製時の注意</p> <p>〈錠〉</p> <p>錠剤分割後は遮光保存すること。</p> <p>14.2 薬剤交付時の注意</p> <p>〈製剤共通〉</p> <p>14.2.1 PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。</p> <p>〈OD錠〉</p> <p>14.2.2 本剤は舌の上のせて唾液を浸潤させると崩壊するため、水なしで服用可能である。また、水で服用することもできる。[7.4参照]</p> <p>14.2.3 本剤は寝たままの状態では、水なしで服用させないこと。</p>

12. その他の注意.....

1) 臨床使用に基づく情報

15.1 臨床使用に基づく情報

投与した薬剤が特定されないままにフルマゼニル(ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤)を投与された患者で、新たに本剤を投与する場合、本剤の鎮静、抗痙攣作用が変化、遅延するおそれがある。

2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験
 - 1) 薬効薬理試験
「VI. 薬効薬理に関する項目」参照
 - 2) 安全性薬理試験
該当資料なし
 - 3) その他の薬理試験
該当資料なし
2. 毒性試験
 - 1) 単回投与毒性試験
該当資料なし
 - 2) 反復投与毒性試験
該当資料なし
 - 3) 遺伝毒性試験
該当資料なし
 - 4) がん原性試験
該当資料なし
 - 5) 生殖発生毒性試験
該当資料なし
 - 6) 局所刺激性試験
該当資料なし
 - 7) その他の特殊毒性
該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

規制区分	
製剤	向精神薬(第三種)、習慣性医薬品 ^{注1)} 、処方箋医薬品 ^{注2)}
有効成分	向精神薬、習慣性医薬品

注1) 注意—習慣性あり

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間

有効期間：3年

3. 包装状態での貯法

室温保存

4. 取扱い上の注意

20. 取扱い上の注意
 〈OD錠〉
 開封後は湿気を避けて遮光して保存すること。

VIII. -11. 参照

5. 患者向け資材

患者向医薬品ガイド：あり、くすりのしおり：あり

その他の患者向け資材

XIII. -2. 参照

6. 同一成分・同効薬

同一成分：マイスリー錠 5mg/錠10mg

同効薬：ベンゾジアゼピン受容体刺激作用(短時間作用型)

トリアゾラム、リルマザホン塩酸塩、ロルメタゼパム、ゾピクロン、エスゾピクロン、プロチゾラム²⁶⁾

7. 国際誕生年月日

該当しない

X. 管理的事項に関する項目

8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日……………

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」

製品名	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
ゾルピデム酒石酸塩 錠5mg「サワイ」	2012年2月15日	22400AMX00213000	2012年6月22日	2012年6月22日

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」

製品名	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
ゾルピデム酒石酸塩 錠10mg「サワイ」	2012年2月15日	22400AMX00214000	2012年6月22日	2012年6月22日

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」

製品名	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
ゾルピデム酒石酸塩 OD錠5mg「サワイ」	2012年2月15日	22400AMX00211000	2012年6月22日	2012年6月22日

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」

製品名	製造販売承認 年月日	承認番号	薬価基準収載 年月日	販売開始 年月日
ゾルピデム酒石酸塩 OD錠10mg「サワイ」	2012年2月15日	22400AMX00212000	2012年6月22日	2012年6月22日

9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容……………

該当しない

10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容……………

該当しない

11. 再審査期間……………

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報……………

本剤は、厚生労働省告示第97号(平成20年3月19日付)により、投薬量が1回30日分を限度とされています。

13. 各種コード

製品名	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	個別医薬品コード (YJコード)	HOT番号	レセプト電算処理 システム用コード
ゾルピデム酒石酸塩 錠5mg「サワイ」	1129009F1017	1129009F1246	121678301	622167801
ゾルピデム酒石酸塩 錠10mg「サワイ」	1129009F2242	1129009F2242	121679001	622167901
ゾルピデム酒石酸塩 OD錠5mg「サワイ」	1129009F3010	1129009F3044	121680601	622168001
ゾルピデム酒石酸塩 OD錠10mg「サワイ」	1129009F4040	1129009F4040	121681301	622168101

14. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) ラット大脳皮質・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.3)(1),
ホ.1.3)(2)
- 2) ラット小脳他・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.3)(1))
- 3) 日本公定書協会編, 医療用医薬品 品質情報集, No. 30, 薬事日報社, 2010, p. 232.
- 4) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」
- 5) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」
- 6) 沢井製薬(株) 社内資料[分割後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」
- 7) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 8) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 9) 沢井製薬(株) 社内資料[分割後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 10) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5mg「サワイ」
- 11) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験(苛酷試験)] ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5mg「サワイ」
- 12) 沢井製薬(株) 社内資料[安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 13) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験(苛酷試験)] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 14) 坂田之訓他：新薬と臨床, 2012 ; 61(3) : 581-594
- 15) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験] ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg「サワイ」
- 16) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 17) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5mg「サワイ」
- 18) 田中孝典他：新薬と臨床, 2012 ; 61(3) : 568-579
- 19) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 20) 沢井製薬(株) 社内資料[自動分包機錠剤落下試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠 5mg「サワイ」
- 21) 沢井製薬(株) 社内資料[自動分包機錠剤落下試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 22) 工藤義雄他：臨床医薬, 1993 ; 9(Suppl. 2) : 57-79
- 23) 工藤義雄他：臨床医薬, 1993 ; 9(1) : 79-105
- 24) 筒井末春他：臨床医薬, 1993 ; 9(2) : 387-413
- 25) 筒井末春他：臨床医薬, 2000 ; 16(5) : 649-669
- 26) 薬剤分類情報閲覧システム < <https://shinryohoshu.mhlw.go.jp/shinryohoshu/yakuzaiMenu/> >
(2024/3/29アクセス)
- 27) 延原健二他：神経精神薬理, 1992 ; 14(2) : 137-144
- 28) 菅野道他：神経精神薬理, 1993 ; 15(9) : 589-602
- 29) 中込和幸他：神経精神薬理, 1993 ; 15(9) : 603-615
- 30) Nakajima, T. et al. : Psychiatry Clin. Neurosci. , 2000 ; 54(1) : 37-40
- 31) Nakajima, T. et al. : Life Sci. , 2000 ; 67(1) : 81-90
- 32) 鈴木牧彦他：神経精神薬理, 1993 ; 15(6) : 375-389
- 33) 内海光朝他：神経精神薬理, 1994 ; 16(1) : 45-56
- 34) Isawa, S. et al. : 日本神経精神薬理学雑誌, 2000 ; 20(2) : 61-69
- 35) Uchiumi, M. et al. : 日本神経精神薬理学雑誌, 2000 ; 20(3) : 123-130
- 36) 佐藤壽他：ブレインサイエンス, 1994 ; 5(3) : 309-320
- 37) ネコ・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.1)(1)ii)

- 38) ラット・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.1)(1)iii)
- 39) ネコ・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.1)(2)i)
- 40) ラット・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.1)(2)ii)
- 41) マウス・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.2)(1)
- 42) ラット・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.2)(2)
- 43) マウス・薬理作用(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.2)(5))
- 44) 工藤義雄他：臨床医薬，1990；6(4)：651-675
- 45) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」
- 46) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 47) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 48) 食事の影響(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.1)(1)
- 49) Villikka, K. et al. : Clin. Pharmacol. Ther., 1997；62(6)：629-634
- 50) 海外健康成人・バイオアベイラビリティ試験(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.3)(2))
- 51) バイオアベイラビリティ(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.総括)
- 52) Pons, G. et al. : Eur. J. Clin. Pharmacol., 1989；37(3)：245-248
- 53) 石橋光治他：薬物動態，1993；8(4)：445-455
- 54) 代謝(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要ホ.1.5)，へ.2.3)(1)，へ.2.3)(2))
- 55) Pichard, L. et al. : Drug Metab. Dispos., 1995；23(11)：1253-1262
- 56) Moltke, L. L. et al. : Br. J. Clin. Pharmacol., 1999；48(1)：89-97
- 57) 海外慢性腎障害患者・薬物動態(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.2)(3))
- 58) 海外慢性腎障害患者・薬物動態(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.2)(3))
- 59) 海外肝硬変患者・薬物動態(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.2)(2))
- 60) 高齢不眠症患者・薬物動態(マイスリー錠：2000年9月22日承認、申請資料概要へ.3.2)(1))
- 61) 沢井製薬(株) 社内資料[粉碎後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」
- 62) 沢井製薬(株) 社内資料[粉碎後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 63) 沢井製薬(株) 社内資料[粉碎後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」
- 64) 沢井製薬(株) 社内資料[粉碎後の安定性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」
- 65) 沢井製薬(株) 社内資料[崩壊・懸濁及びチューブ通過性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」
- 66) 沢井製薬(株) 社内資料[崩壊・懸濁及びチューブ通過性試験] ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」
- 67) 沢井製薬(株) 社内資料[崩壊・懸濁及びチューブ通過性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」
- 68) 沢井製薬(株) 社内資料[崩壊・懸濁及びチューブ通過性試験] ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」

2. その他の参考文献

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

 2. 海外における臨床支援情報
- 該当資料なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

1) 粉砕

<粉砕後の安定性試験>

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」⁶¹⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」を粉砕後、以下の保存条件下で30日間保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	透明瓶開放 (室温、30日)	透明瓶密栓 (室温、30日)	褐色瓶密栓 (室温、30日)
性状	淡いだいだい色のコーティング粉末を含む白色の粉末	変化なし	変化なし	変化なし
定量試験※	100.0	100.9	102.0	101.7

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」⁶²⁾

ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」を粉砕後、以下の保存条件下で30日間保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	透明瓶開放 (室温、30日)	透明瓶密栓 (室温、30日)	褐色瓶密栓 (室温、30日)
性状	淡いだいだい色のコーティング粉末を含む白色の粉末	変化なし	変化なし	変化なし
定量試験※	100.0	101.0	100.8	101.1

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」⁶³⁾

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」を粉砕後、以下の保存条件下で30日間保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	透明瓶開放 (室温、30日)	透明瓶密栓 (室温、30日)	褐色瓶密栓 (室温、30日)
性状	淡赤色の粉末	変化なし	変化なし	変化なし
定量試験※	100.0	99.2	99.5	99.9

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」⁶⁴⁾

<参考>

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」を粉碎後、以下の保存条件下で30日間保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	透明瓶開放 (室温、30日)	透明瓶密栓 (室温、30日)	褐色瓶密栓 (室温、30日)
性 状	淡赤色の粉末	変化なし	変化なし	変化なし
定量試験*	100.0	99.2	99.5	99.9

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」は、5mg製剤と同一処方(有効成分及び各添加物の含有比率が同じ)で錠剤重量のみが異なる製剤であるため、ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」の粉碎後の安定性試験は、5mg製剤と同様であると考えられる。

2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

<崩壊・懸濁及びチューブ通過性試験>

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」⁶⁵⁾

試験方法

1. ゾルピデム酒石酸塩錠5mg「サワイ」を1錠、シリンジにとり(ピストン部を抜き取り、錠剤を入れてピストン部を戻す)、温湯(約55℃)20mLを採取して放置した。
2. 5分後シリンジを15回転倒混和し、崩壊・懸濁状態を確認した。5分後に崩壊しない場合、更に5分間放置後、同様の操作を行った。
3. シリンジ内の液を8Fr.(外径2.7mm)フィーディングチューブに注入し、通過状態を観察した。

結 果

懸濁状態	錠剤は5分後に崩壊し、転倒混和により懸濁液となった
チューブ通過性	通過した

●ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」⁶⁶⁾

試験方法

1. ゾルピデム酒石酸塩錠10mg「サワイ」を1錠、シリンジにとり(ピストン部を抜き取り、錠剤を入れてピストン部を戻す)、温湯(約55℃)20mLを採取して放置した。
2. 5分後シリンジを15回転倒混和し、崩壊・懸濁状態を確認した。5分後に崩壊しない場合、更に5分間放置後、同様の操作を行った。
3. シリンジ内の液を8Fr.(外径2.7mm)フィーディングチューブに注入し、通過状態を観察した。

結 果

懸濁状態	錠剤は5分後に崩壊し、転倒混和により懸濁液となった
チューブ通過性	通過した

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」⁶⁷⁾

試験方法

1. ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「サワイ」を1錠、シリンジにとり(ピストン部を抜き取り、錠剤を入れてピストン部を戻す)、温湯(約55℃)20mLを採取して放置した。
2. 5分後シリンジを15回転倒混和し、崩壊・懸濁状態を確認した。5分後に崩壊しない場合、更に5分間放置後、同様の操作を行った。
3. シリンジ内の液を8Fr.(外径2.7mm)フィーディングチューブに注入し、通過状態を観察した。

結 果

懸濁状態	錠剤は30秒後に崩壊し、転倒混和により懸濁液となった
チューブ通過性	通過した

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」⁶⁸⁾

試験方法

1. ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「サワイ」を1錠、シリンジにとり(ピストン部を抜き取り、錠剤を入れてピストン部を戻す)、温湯(約55℃)20mLを採取して放置した。
2. 5分後シリンジを15回転倒混和し、崩壊・懸濁状態を確認した。5分後に崩壊しない場合、更に5分間放置後、同様の操作を行った。
3. シリンジ内の液を8Fr.(外径2.7mm)フィーディングチューブに注入し、通過状態を観察した。

結 果

懸濁状態	錠剤は30秒後に崩壊し、転倒混和により懸濁液となった
チューブ通過性	通過した

2. その他の関連資料

患者向け資料

●ゾルピデム酒石酸塩錠5mg/錠10mg/OD錠5mg/OD錠10mg「サワイ」

- ・睡眠薬指導箋
- ・自動車運転等はしないでください・お知らせ指導箋

●ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg/OD錠10mg「サワイ」

- ・ゾルピデム酒石酸塩OD錠「サワイ」を服用される患者さんへ
- ・OD錠を服用される患者さんへ OD錠という選択肢

沢井製薬株式会社「医療関係者向け総合情報サイト」<https://med.sawai.co.jp/> 参照

